

平成30年度 第5回府中市男女共同参画推進協議会 次第

日 時：平成30年10月26日（金）

午前10時

場 所：府中市役所 北庁舎3階
第1会議室

1 報告事項

- (1) 第6次府中市男女共同参画計画について

2 審議事項

- (1) 府中市男女共同参画計画推進状況評価報告・第三者評価について

3 その他

【配布資料】

資料1 府中市男女共同参画に関する意識調査—結果速報—

資料2 府中市男女共同参画に関する意識調査結果概要（速報）.

資料3 府中市男女共同参画計画推進状況評価重点項目各委員評価

府中市男女共同参画に関する意識調査

—結果速報—

【調査概要】

対象：府中市に居住する 18 歳以上の市民 調査期間：平成 30 年 9 月

調査方法：郵送による配布回収 配布数：2,000 票 回収数：772（回収率 38.6%）

 : 1 位
 : 2 位
 : 3 位
 : 男女差が大きい

■ あなたご自身について

F 1. 性別 (※)	1. 男性 37.7	2. 女性 61.3	無回答 1.0	
F 2. 年齢	全体	男性	女性	
1. 18～19 歳	0.3	0.3	0.2	
2. 20～29 歳	7.4	8.2	7.0	
3. 30～39 歳	15.5	14.4	16.3	
4. 40～49 歳	23.1	23.0	23.5	
5. 50～59 歳	18.0	16.2	19.2	
6. 60～69 歳	18.0	20.3	16.9	
7. 70 歳以上	17.0	17.2	16.9	
無回答	0.8	0.3	0.0	
F 3. 職業	1. 自営業主（家族従業員含む）、自由業	6.7	11.3	4.0
2. 正社員・役員、正職員、契約社員	38.0	57.0	26.6	
3. パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	20.5	6.5	29.2	
4. 主婦、主夫	17.2	0.7	27.5	
5. 学生	1.6	1.4	1.7	
6. 無職	12.7	19.9	8.5	
7. その他	1.8	2.4	1.5	
無回答	1.6	0.7	1.1	
F 4. 世帯構成	1. ひとり暮らし	13.9	17.9	11.6
2. 夫婦のみ	25.1	26.8	24.3	
3. 親と未婚の子ども（たち）	44.4	38.1	48.8	
4. 親と子ども夫婦	2.1	2.1	2.1	
5. 親と子どもと孫	2.2	1.0	3.0	
6. その他	10.6	13.1	9.1	
無回答	1.7	1.0	1.1	

F 5. 婚姻の有無		全体	男性	女性
	1. 未婚	20.2	25.1	17.5
	2. 有配偶者（事実婚含む）	69.0	68.7	70.0
	3. 離別・死別	9.3	5.2	11.8
	無回答	1.4	1.0	0.6
（F 5. で「2. 有配偶者（事実婚含む）」と答えた方にうかがいます） F 6. 家庭の現在の勤務形態				
	1. 共働き	50.8	46.5	53.5
	2. 夫（男性・パートナー）のみ働いている	26.8	32.0	23.6
	3. 妻（女性・パートナー）のみ働いている	5.1	6.0	4.5
	4. とともに無職	14.1	13.5	14.5
	5. その他	0.4	0.0	0.6
	無回答	2.8	2.0	3.3

（※）F1. 性別については、戸籍上の区別とは別にご自身の主観によりご記入ください。

■ あらゆる分野における男女共同参画について

問 1

以下の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。(〇はいくつでも)

	全体	男性	女性
1. 男女共同参画社会	52.8	55.3	51.8
2. 女性差別撤廃条約	40.8	41.9	40.4
3. 男女雇用機会均等法	82.6	84.2	82.0
4. 女性活躍推進法	39.8	41.2	39.3
5. 配偶者暴力防止法	37.6	35.4	38.9
6. ストーカー規制法	88.7	87.3	90.1
7. L G B T	58.7	61.9	57.3
8. セクシュアルマイノリティ	52.6	49.8	55.0
9. D V ・ デート D V	79.5	80.4	79.5
10. セクシュアルハラスメント	89.8	91.1	89.9
11. パワーハラスメント	94.3	95.9	94.1
12. マタニティハラスメント	82.3	80.4	84.4
13. メディア・リテラシー	26.0	32.0	22.8
14. クォータ制	6.1	8.6	4.7
15. イクボス	16.5	15.5	17.3
16. ケアボス	5.7	7.6	4.7
17. ポジティブ・アクション	12.7	13.4	12.3
18. ジェンダー	61.3	59.1	63.2
19. ワーク・ライフ・バランス	54.8	60.1	52.2
20. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ	3.8	4.1	3.6
21. 上記の中で見たり聞いたりした言葉はない	0.5	1.0	0.2
無回答	1.3	1.7	0.4

※国は「男女共同参画社会」という用語の周知度の目標値を 100%としている。

平成 28 年度の国の「男女共同参画社会に関する世論調査」結果は

「男女共同参画社会」の周知率は 66.6%（男性 70.4%、女性 63.3%）。

問2 家庭における男女のあり方は、本来どうあるべきだと思いますか。(○は1つ)

	全体	男性	女性
1. 男女とも仕事をし、家事（育児・介護）もする	21.2	22.3	20.9
2. 仕事、家事（育児・介護）の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応する	64.4	57.7	68.5
3. 男性は仕事、女性は家事（育児・介護）をする	4.5	5.8	3.8
4. 男性は仕事、女性は主に家事（育児・介護）をし、仕事もする	3.4	5.8	1.9
5. 男性は仕事、女性は仕事も家事（育児・介護）もする	0.1	0.0	0.2
6. 女性は仕事、男性は家事（育児・介護）をする	0.0	0.0	0.0
7. 女性は仕事、男性は主に家事（育児・介護）をし、仕事もする	0.0	0.0	0.0
8. 女性は仕事、男性は仕事も家事（育児・介護）もする	0.0	0.0	0.0
9. 特に考えはない	5.2	7.2	4.0
無回答	1.2	1.0	0.6

問3 実際にあなたの家庭では、どのようになっていますか。(○は1つ)

	全体	男性	女性
1. 男女とも仕事をし、家事（育児・介護）をしている	15.9	15.8	16.1
2. 仕事、家事（育児・介護）の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応している	24.0	25.8	23.3
3. 男性は仕事、女性は家事（育児・介護）をしている	19.8	22.0	18.8
4. 男性は仕事、女性は主に家事（育児・介護）をし、仕事もしている	10.5	8.9	11.4
5. 男性は仕事、女性は仕事も家事（育児・介護）もしている	8.7	4.8	10.8
6. 女性は仕事、男性は家事（育児・介護）をしている	0.4	0.7	0.2
7. 女性は仕事、男性は主に家事（育児・介護）をし、仕事もしている	0.0	0.0	0.0
8. 女性は仕事、男性は仕事も家事（育児・介護）もしている	0.1	0.0	0.2
9. その他	15.7	16.2	15.6
無回答	4.9	5.8	3.6

問3 その他の主な記述

- ・一人暮らし
- ・独身
- ・両者とも仕事をしていない など

問 4 あなたは市や地域での活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

	全体	男性	女性
1. 子育て関係の活動（ＰＴＡ、子ども会、子どもの見守りなど）	13.6	5.5	18.6
2. 自治活動（町会・自治会、防災、防犯、環境美化など）	21.1	19.2	22.2
3. ＮＰＯ・ボランティア活動（高齢者、障害者、在住外国人の支援活動など）	3.0	2.4	3.2
4. 市の活動（文化センター・女性センターの活動、民生委員・審議会・協議会等の公募委員・実行委員会の活動）	4.1	1.7	5.5
5. その他	2.6	4.5	1.5
6. 1～5のいずれにも参加していない	63.5	69.1	59.8
無回答	0.6	1.4	0.2

(問4で「6. 1～5のいずれにも参加していない」と答えた方にうかがいます)

問 4-1 参加していない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

	全体	男性	女性
1. 仕事や職場の付き合いなどで時間がとれない	40.8	44.3	37.8
2. 子育て、介護等の家庭の事情により時間がとれない	12.7	4.5	18.7
3. 市や地域の活動に参加したいが、参加方法がわからない	12.4	12.9	12.4
4. 参加したい活動が見つからない	18.0	11.9	22.3
5. 人間関係がわずらわしい	19.6	20.9	18.7
6. 興味がない	22.7	23.9	21.2
7. その他	13.9	12.4	14.8
無回答	1.2	1.0	1.4

問 4-1 その他の主な記述

- ・体力がないから
- ・高齢だから など

問5

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたは
 どうお考えですか。(○は1つ)

	全体	男性	女性
1. 賛成	3.8	3.8	3.8
2. どちらかといえば賛成	28.8	32.6	26.0
3. どちらかといえば反対	28.8	25.1	31.1
4. 反対	21.6	18.6	23.5
5. わからない	14.4	15.5	14.0
無回答	2.7	4.5	1.7

〔国との比較〕

	府中市	国
・ 賛成	3.8	8.8
・ どちらかといえば賛成	28.8	31.7
賛成（小計）	32.6	40.6
・ どちらかといえば反対	28.8	34.8
・ 反対	21.6	19.5
反対（小計）	50.4	54.3
わからない	14.4	5.1

国：平成28年「男女共同参画社会に関する世論調査」

問6

あなたは次の（１）～（７）の分野で男女の地位・立場が平等になっていると思いますか。（それぞれについて○は１つ）

		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女の地位・立場は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
記入例	（１）家庭生活の場で	1	2	3	4	5	6	
（１）家庭生活の場で	全体	8.2	38.0	32.4	8.9	1.2	8.0	3.4
	男性	2.7	31.6	40.2	11.7	1.7	9.6	2.4
	女性	11.4	42.1	27.9	7.2	0.8	7.0	3.6
（２）職場で	全体	12.8	42.7	23.2	5.4	1.3	10.1	4.4
	男性	10.0	40.9	28.5	6.9	3.1	6.9	3.8
	女性	14.8	43.8	19.9	4.4	0.2	12.3	4.7
（３）学校教育の場で	全体	2.1	15.8	46.9	3.4	0.8	25.9	5.2
	男性	1.7	13.1	48.8	5.2	2.1	24.4	4.8
	女性	2.3	17.3	45.5	2.3	0.0	27.3	5.3
（４）地域社会（町会・自治会など）で	全体	7.4	27.6	29.3	3.6	0.6	27.1	4.4
	男性	4.8	23.0	34.0	5.5	1.7	26.1	4.8
	女性	8.9	30.2	26.6	2.3	0.0	27.9	4.0
（５）政治の場で	全体	43.3	36.5	6.9	0.8	0.3	8.9	3.4
	男性	35.4	36.8	12.7	1.4	0.7	8.9	4.1
	女性	48.2	36.2	3.4	0.4	0.0	9.1	2.7
（６）法律や制度の上で	全体	13.9	38.2	22.7	5.3	2.1	14.2	3.6
	男性	9.3	32.6	33.0	5.5	4.8	10.3	4.5
	女性	16.7	41.6	16.3	5.1	0.4	16.9	3.0
（７）社会通念・習慣・しきたりなどで	全体	26.0	51.6	8.5	1.8	0.6	7.9	3.5
	男性	20.3	51.2	10.7	3.4	1.4	8.9	4.1
	女性	29.6	51.6	7.4	0.8	0.2	7.4	3.0

〔東京都と国との比較－「男女の地位・立場は平等になっている」の全体の％－〕

	府中市	東京都	国
（１）家庭生活の場で	32.4	40.4	47.4
（２）職場で	23.2	22.9	29.7
（３）学校教育の場で	46.9	76.3	66.4
（４）地域社会（町会・自治会など）で	29.3	46.2	47.2
（５）政治の場で	6.9	16.8	18.9
（６）法律や制度の上で	22.7	40.0	40.8
（７）社会通念・習慣・しきたりなどで	8.5	21.0	21.8

東京都：平成27年「男女共同参画社会に関する世論調査」

国：平成28年「男女共同参画社会に関する世論調査」

問7

児童・生徒の男女共同参画の意識を育てるために、学校教育で特に必要な取り組みは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

	全体	男性	女性
1. 男女が協力して物事を進める必要性を学ぶ	70.3	64.6	74.2
2. ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ	71.1	67.4	73.4
3. 家庭や家族の多様なありかたについて学ぶ	56.1	53.3	57.7
4. 生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	58.7	51.9	63.0
5. DV（配偶者間での暴力）・デートDV（交際相手からの暴力）を防ぐための教育や相談を行う	34.6	28.5	38.3
6. 人権尊重の視点に立った性教育を充実させる	38.3	32.3	42.3
7. 性犯罪の加害者や被害者になることを防いだり、性産業に巻き込まれないための教育や相談を行う	42.1	33.0	47.1
8. 子どものメディア・リテラシー（※）を高める教育を行う	33.0	32.3	33.8
9. 教職員を対象とした男女共同参画の研修を実施する	28.1	26.8	29.4
10. 教員の男女比を同数にしたり、管理職（校長や副校長）に女性を増やしていく	27.2	23.7	29.2
11. その他	3.4	3.8	3.2
12. どれも必要だとは思わない	1.2	2.7	0.2
無回答	1.6	2.4	0.8

問8

あなたは、災害対策に男女双方の視点を生かすためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	全体	男性	女性
1. 防災分野の委員会や会議が、男女同数の構成になるようにする	23.2	22.0	24.3
2. 災害対応や復興において男女双方の視点が活かされるよう、災害現場の支援活動の中で男女のリーダーをバランスよく配置する	57.9	52.6	61.1
3. 災害に関する各種対応マニュアルなどに男女双方の視点を入れる	62.8	60.8	64.3
4. 性別に応じてプライバシー（トイレ・更衣・授乳・就寝スペース等）が確保できる避難所運営を行えるようにする	81.3	77.0	84.4
5. 災害時における配偶者やパートナー、子どもに対する暴力の防止策を講じたり、相談窓口を設置する	30.3	27.5	31.9
6. 消防職員・警察官・自衛官・自治体職員などについて、防災担当に男女がバランスよく配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する	33.9	32.6	34.5
7. その他	2.7	4.1	1.9
8. どれも必要だとは思わない	1.6	2.7	0.8
無回答	1.6	1.4	1.5

問9 女性が職業を持つことについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

	全体	男性	女性
1. 結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい	46.8	48.1	46.5
2. 結婚するまでは職に就き、結婚後は家事に専念するのがよい	2.3	3.1	1.9
3. 結婚後も職に就き、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい	3.9	5.5	3.0
4. 子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのがよい	29.8	27.5	30.4
5. 女性は職業に就かず、家事や育児、介護などに専念するのがよい	0.0	0.0	0.0
6. 特に考えはない	13.6	12.7	14.2
無回答	3.6	3.1	4.0

〔府中市世論調査との経年比較〕

	H30市民調査 (N=772)	H26世論調査 (N=844)
結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい	46.8	33.2
結婚するまでは職に就き、結婚後は家事に専念するのがよい	2.3	3.0
結婚後も職に就き、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい	3.9	5.2
子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのがよい	29.8	41.7
女性は職業に就かず、家事や育児、介護などに専念するのがよい	0.0	0.9
特に考えはない	13.6	13.6
無回答	3.6	2.4

〔東京都、国の調査との経年比較〕

	府中市	東京都	国
結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい	46.8	51.7	54.2
結婚するまでは職に就き、結婚後は家事に専念するのがよい	2.3	3.2	4.7
結婚後も職に就き、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい	3.9	7.0	8.4
子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのがよい	29.8	29.2	26.3
女性は職業に就かず、家事や育児、介護などに専念するのがよい	0.0	1.0	3.3
特に考えはない	13.6		
無回答	3.6		

東京都：平成27年「男女共同参画社会に関する世論調査」

国：平成28年「男女共同参画社会に関する世論調査」

※府中市、東京都、国では選択肢の文章が若干異なる

問 10

女性が職業を長く持ち続けていくうえで、壁になっているものがあると思いますか。最も大きな壁と思われるものを選んでください。(○は1つ)

	全体	男性	女性
1. 家事・育児との両立が難しい	31.1	33.7	29.2
2. 家族の理解や協力が得にくい	4.7	2.4	6.1
3. 高齢者や病人介護がある	4.7	2.4	5.9
4. 子どもを預ける施設の数やサービスが不足している	18.8	19.2	18.8
5. 女性自身の職業に対する自覚（意欲）が不足している	2.5	1.4	3.0
6. 男性の理解や意識が不足している	8.5	8.6	8.7
7. 育児・介護休業制度などを利用しにくい	5.3	5.2	5.5
8. 昇進・昇給や教育制度に男女の不公平な取り扱いがある	2.1	2.1	2.1
9. 職場に結婚・出産退職の慣行がある	1.2	1.4	1.1
10. 女性はすぐ辞める、労働能力が劣るという考え方がある	3.0	2.7	3.2
11. 夫・妻に転勤がある	1.8	1.7	1.9
12. その他	2.7	3.8	2.1
13. 特にない	3.1	5.5	1.5
無回答	10.6	10.0	11.0

〔府中市世論調査との経年比較〕

	H30市民調査 (N=772)	H26世論調査 (N=844)	H25世論調査 (N=836)
家事・育児との両立が難しい	31.1	38.7	34.1
家族の理解や協力が得にくい	4.7	4.6	3.3
高齢者や病人介護がある	4.7	8.6	8.6
子どもを預ける施設の数やサービスが不足している	18.8	25.7	20.2
女性自身の職業に対する自覚（意欲）が不足している	2.5	1.9	3.0
男性の理解や意識が不足している	8.5		
育児・介護休業制度などを利用しにくい	5.3	4.7	5.1
昇進・昇給や教育制度に男女の不公平な取り扱いがある	2.1	2.3	3.6
職場に結婚・出産退職の慣行がある	1.2	2.5	1.1
女性はすぐ辞める、労働能力が劣るという考え方がある	3.0	2.0	1.6
夫・妻に転勤がある	1.8	0.8	0.8
その他	2.7	1.9	3.8
特にない	3.1	3.2	11.5
無回答	10.6	3.0	3.2

■ ワーク・ライフ・バランスについて

問 11

あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度について、あなたの希望に最も近いものを選んでください。（○は1つ）

	全体	男性	女性
1. 「仕事」を優先したい	3.6	7.6	1.1
2. 「家庭生活」を優先したい	17.9	15.5	19.7
3. 「個人の生活」を優先したい	11.3	13.7	9.7
4. 「仕事」と「家庭生活」を優先したい	19.3	23.4	16.5
5. 「仕事」と「個人の生活」を優先したい	6.1	6.2	6.1
6. 「家庭生活」と「個人の生活」を優先したい	20.7	13.7	24.9
7. 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべてを優先したい	19.4	18.6	20.1
無回答	1.7	1.4	1.9

〔東京都、国の調査との経年比較〕

	府中市	東京都	国
「仕事」を優先したい	3.6	4.4	8.9
「家庭生活」を優先したい	17.9	15.7	25.5
「個人の生活」を優先したい	11.3	9.3	3.8
「仕事」と「家庭生活」を優先したい	19.3	21.9	30.5
「仕事」と「個人の生活」を優先したい	6.1	7.4	4.7
「家庭生活」と「個人の生活」を優先したい	20.7	12.2	9.7
「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべてを優先したい	19.4	24.7	15.4
無回答	1.7	4.4	

東京都：平成27年「男女共同参画社会に関する世論調査」

国：平成28年「男女共同参画社会に関する世論調査」

問 12

あなたの生活の中での優先度について、あなたの現実に最も近いものを選んでください。（○は1つ）

	全体	男性	女性
1. 「仕事」を優先している	20.5	30.9	14.0
2. 「家庭生活」を優先している	28.9	14.1	38.5
3. 「個人の生活」を優先している	9.1	12.0	7.4
4. 「仕事」と「家庭生活」を優先している	17.1	20.6	14.6
5. 「仕事」と「個人の生活」を優先している	6.5	7.6	5.9
6. 「家庭生活」と「個人の生活」を優先している	9.7	5.5	12.1
7. 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべてを優先している	6.6	7.9	5.7
無回答	1.7	1.4	1.9

〔東京都、国の調査との経年比較〕

	府中市	東京都	国
「仕事」を優先している	20.5	29.6	25.5
「家庭生活」を優先している	28.9	21.3	30.5
「個人の生活」を優先している	9.1	5.6	4.6
「仕事」と「家庭生活」を優先している	17.1	17.6	21.6
「仕事」と「個人の生活」を優先している	6.5	6.1	3.2
「家庭生活」と「個人の生活」を優先している	9.7	6.8	8.0
「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべてを優先している	6.6	6.7	5.3
無回答	1.7	6.4	

東京都：平成27年「男女共同参画社会に関する世論調査」

国：平成28年「男女共同参画社会に関する世論調査」

問 13

あなたは、ワーク・ライフ・バランス実現のために、どのような取り組みが有効だと思いますか。（○はいくつでも）

	全体	男性	女性
1. 長時間労働の削減	51.0	55.7	48.2
2. 有給休暇の取得促進	40.8	43.3	39.1
3. 仕事と育児の両立支援	46.4	36.4	52.9
4. 仕事と介護の両立支援	33.8	27.8	37.6
5. 管理職の意識啓発	27.7	28.5	27.1
6. 従業員の意識啓発	20.2	18.2	21.6
7. テレワーク（在宅勤務等）などの多様な働き方の導入	31.7	30.9	32.3
8. 福利厚生制度の充実など、休暇の過ごし方の支援	22.7	22.0	23.5
9. フレックスタイム、短時間勤務制度など柔軟な働き方の導入	46.5	37.8	52.0
10. その他	6.5	7.6	5.7
無回答	3.1	1.7	4.0

問 14

あなたは、ワーク・ライフ・バランスのとれた環境をつくるために、府中市にどのようなことを望みますか。(〇はいくつでも)

	全体	男性	女性
1. 働き方の多様化に伴い様々なニーズに対応するため、待機児童の削減や一時預かり等の保育サービスの充実を図る	55.6	56.4	55.4
2. 子育て支援ボランティア養成等、地域全体で子育て支援に取り組めるよう仕組みづくりを進める	34.2	33.0	35.3
3. 高齢者・障害者・介護者支援の制度充実、環境の整備、情報の提供等を行っていく	48.7	45.7	50.3
4. 男女とも仕事と生活を両立できるようにするため、企業、事業所に対して環境整備を働きかけたり、研修等のワーク・ライフ・バランスへの意識啓発に関する取組の推進をはかる	38.3	32.6	41.4
5. 市民に対してワーク・ライフ・バランスへの意識啓発に関する講座等を実施する	8.4	7.6	9.1
6. ワーク・ライフ・バランスへの理解を推進するため、パンフレットやポスターの配布・掲示等により、事業者・労働者双方への情報提供等を行う	13.9	10.7	15.9
7. その他	4.5	6.2	3.4
8. 特にない	8.0	10.3	6.6
無回答	2.3	2.1	2.5

■ 人権が尊重される社会の形成について

問 15

パートナー間でけがを負わせるほどの暴力を振るったり、振るわれたりしたときの対応の仕方について以下の2つの意見があります。

A. 当事者や家族間で解決するように努力するべきだ。

B. 警察や相談機関などにかかわってもらうべきだ。

あなたの考えに近いものを選んでください。(○は1つ)

	全体	男性	女性
1. A	4.4	5.2	3.8
2. どちらかといえばA	12.0	14.4	9.9
3. どちらかといえばB	43.9	40.2	46.7
4. B	37.8	38.1	37.8
無回答	1.8	2.1	1.7

〔府中市世論調査との経年比較〕

	H30市民調査 (N=772)	H28世論調査 (N=996)	H24世論調査 (N=846)
Aに近い	4.4	12.1	15.8
どちらかといえば、Aに近い	12.0	18.1	24.8
Bに近い	43.9	47.2	27.5
どちらかといえば、Bに近い	37.8	21.2	27.3
無回答	1.8	1.4	4.5

問 16

あなたやあなたの身近な人が、パートナーからの身体的暴力、精神的暴力、社会的暴力、経済的暴力、性的暴力を受けたり、気づいたりしたことがありますか。
(○は1つ)

	全体	男性	女性
1. 何度もあった	7.4	4.5	9.1
2. 1・2度あった	13.1	10.7	14.6
3. まったくない	76.8	82.1	73.6
無回答	2.7	2.7	2.7

(問 16 で「1. 何度もあった」または「2. 1・2度あった」と答えた方にうかがいます)

問 16-1	あなたは、暴力を受けたり、気づいたりしたときに、だれ（どこ）かに相談しましたか。(○は1つ)
--------	--

	全体	男性	女性
1. 相談した	32.9	31.8	33.9
2. 相談したかったが、相談先を知らなかった	10.1	6.8	11.6
3. 相談したかったが、相談しなかった	22.2	15.9	24.1
4. 相談しようと思わなかった	34.2	45.5	29.5
無回答	0.6	0.0	0.9

※国は配偶者からの被害を相談した者の割合の目標値を男性 30%、女性 70%としている。

平成 29 年度の国の「男女間における暴力に関する調査」では「相談した」は 47.1%
(男性 26.9%、女性 57.6%)。

(問 16-1 で「1. 相談した」と答えた方にうかがいます)

問 16-2	だれ（どこ）に相談しましたか。(○はいくつでも)
--------	--------------------------

	全体	男性	女性
1. 友人・知人	59.6	57.1	60.5
2. 家族・親戚	44.2	28.6	50.0
3. 警察	19.2	14.3	21.1
4. 医師	15.4	14.3	15.8
5. スクエア 2 1・府中市女性センターの女性問題相談	7.7	0.0	10.5
6. 市のひとり親相談	1.9	0.0	2.6
7. 市の法律相談	5.8	0.0	7.9
8. 市の人権相談	7.7	7.1	7.9
9. 子ども家庭支援センター	3.8	7.1	2.6
10. 東京ウィメンズプラザ	1.9	0.0	2.6
11. 東京都女性相談センター	3.8	0.0	5.3
12. その他	9.6	14.3	7.9
無回答	0.0	0.0	0.0

(問 16-1 で「3. 相談したかったが、相談しなかった」「4. 相談しようと思わなかった」と答えた方にうかがいます)

問 16-3 だれ（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）

	全体	男性	女性
1. 相談するほどのことではないと思った	25.8	22.2	26.7
2. 自分にも悪いところがあった	15.7	14.8	13.3
3. 相談しても無駄だと思った	34.8	37.0	33.3
4. 我慢すればやっていけると思った	25.8	33.3	21.7
5. 他人を巻き込みたくなかった	15.7	25.9	11.7
6. 相談する人がいなかった	12.4	11.1	11.7
7. その他	31.5	22.2	35.0
無回答	1.1	3.7	0.0

問 16-3 その他の主な記述

回答者がDVを受けたと思われるケース

- ・自己解決（4件）
- ・相談するということに思い至らなかった（2件）
- ・相談するのが恥ずかしかった（3件）
- ・子どもだったので（2件）
- ・被害が大きくなると思った（2件）
- ・相談することで心の傷が深くなると思った（2件）

身近な人がDVを受けたと思われるケース

- ・回答者が解決した（3件）
- ・相談すべきが判断できなかった（3件）
- ・本人が解決した（2件）
- ・解決後知った
- ・他の人が解決した
- ・本人が望まなかった
- ・見守った

問 17

あなたはDV（配偶者等からの暴力）やデートDV（交際相手からの暴力）の対策や防止のために、今後、府中市の施策として特にどのような事業が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

	全体	男性	女性
1. 窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする	61.1	63.2	59.8
2. 相談先や相談方法を記載したカードを、公共スペースにあるトイレなど、ひとりで手にとり、読みやすいところに配布し、気軽に相談できる入り口とする	38.0	33.7	40.8
3. 住民票等のプライバシー確保など被害者の安全を守る体制を確立する	50.4	46.0	52.9
4. 被害の実態や被害者の支援策を多言語で市民に広く知らせる	13.0	11.3	14.2
5. 被害者を一時的に保護する施設（シェルター）を増やす	41.3	38.5	42.9
6. 被害者に対する自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援）などを行う	43.3	35.1	48.4
7. 被害者支援に携わる人（警察、医師、相談機関職員など）の意識向上を図る	40.0	37.8	41.6
8. 加害者にならないための事業を実施する	16.6	14.8	18.0
9. 学校で人権や男女共同参画に関する授業を実施する	29.1	24.4	31.9
10. 親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする	38.9	32.6	42.7
11. その他	3.5	5.8	2.1
無回答	1.9	2.7	1.3

問 18

日常生活の中で、次の（１）～（６）にあげるような行為を受けたことがありますか。（それぞれについて○は１つ）

		何 度 も あ る	１ ・ ２ 度 あ る	ま っ た く な い	無 回 答
（記入例）（１）不必要に身体に触られた		1	2	3	
（１）不必要に身体に触られた	全体 男性 女性	4.1 2.1 5.3	17.0 5.8 24.1	74.4 88.7 66.0	4.5 3.4 4.7
（２）容姿や体型などについて話題にされた	全体 男性 女性	12.8 10.7 14.2	25.5 19.6 29.2	57.4 66.3 52.2	4.3 3.4 4.4
（３）性的な会話を聞かされたり、性的な絵・写真等を見せられたり目に入る場所に置かれたりした	全体 男性 女性	5.8 4.5 6.6	14.1 7.2 18.4	75.6 85.2 70.4	4.4 3.1 4.7
（４）身体を執拗に眺めまわすような目で見られた	全体 男性 女性	3.1 1.7 3.8	9.8 3.1 14.2	82.5 91.8 77.4	4.5 3.4 4.7
（５）嫌がっているのに電話、手紙、Ｅメール等がされたり食事に誘われたりした	全体 男性 女性	3.1 0.0 4.9	9.8 3.8 13.7	82.4 92.4 76.7	4.7 3.8 4.7
（６）「男のくせに」「女のくせに」等の性差理由の不快な言葉を言われた	全体 男性 女性	7.4 7.2 7.4	23.3 17.5 27.1	65.3 72.5 61.1	4.0 2.7 4.4

問 19

あなたは、セクシュアルマイノリティの人々の人権を守るために、特にどのような方策が必要だと思われますか。（○はいくつでも）

	全 体	男 性	女 性
1. 正しい理解を深めるための教育を学校で行う	61.4	54.0	66.6
2. 正しい理解を深めるための啓発活動を行政が行う	39.9	41.9	38.3
3. 相談・支援体制を充実させる	41.3	40.9	41.6
4. セクシュアルマイノリティであっても不利な取り扱いをうけないよう 法律や制度を整備する	52.3	40.2	59.8
5. その他	3.2	4.5	2.3
6. 特に必要なことはない	4.5	7.9	2.5
無回答	1.9	1.7	1.9

■ 男女共同参画社会づくりに向けた市の施策について

問 20

府中市には、男女共同参画社会の実現に向けて、各種講座や女性問題相談、情報提供などを行っている「スクエア21・府中市女性センター」があります。この施設を知っていますか。(○は1つ)

	全体	男性	女性
1. 施設を利用したことがある	10.8	3.4	15.2
2. 知っているが利用したことがない	39.9	36.1	42.3
3. 施設があることを知らなかった	47.7	58.8	41.0
無回答	1.7	1.7	1.5

〔府中市世論調査との経年比較〕

	H30市民調査 (N=772)	H26世論調査 (N=844)	H25世論調査 (N=836)
施設を利用したことがある	10.8	10.4	6.8
知っているが利用したことがない	39.9	42.1	41.4
施設があることを知らなかった	47.7	45.7	50.4
無回答	1.7	1.8	1.4

(問 20 で「2. 知っているが利用したことがない」と答えた方にうかがいます)

問 20-1

利用したことがない理由はなんですか。(○はいくつでも)

	全体	男性	女性
1. 現時点で利用する必要性を感じない	69.8	77.1	67.0
2. 興味のある事業がない	7.5	2.9	10.0
3. どのような事業をしているか情報がない	30.8	25.7	33.0
4. 施設に入りづらい雰囲気がある	7.8	8.6	7.5
5. 自宅から遠く不便	17.5	4.8	23.5
6. 施設がどこにあるか知らない	8.4	6.7	9.5
7. その他	3.6	5.7	2.5
無回答	0.6	1.0	0.0

問 21

「スクエア 21・府中市女性センター」で実施している講座・セミナー等で、参加したい・利用したいと思うものを選んでください。(○はいくつでも)

	全体	男性	女性
1. 男女共同参画社会への意識づくりを目標とした事業 (男女共同参画推進フォーラム、男女共同参画を啓発する講座など)	9.7	11.7	8.7
2. 女性の人権の尊重と擁護を目標とした事業 (女性に対するあらゆる暴力をなくすための講座など)	8.0	3.4	10.8
3. 男女共同参画を目標とした事業(市政に女性の意見を反映するための 知識を得る講座、男性のための料理講座など)	14.5	13.7	15.2
4. 働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業 (パソコン講座、起業セミナー、再就職支援講座など)	27.3	18.9	32.3
5. 性に関する女性の権利の確立と健康支援を目標とした事業 (健康支援や性に関する権利を啓発する講座など)	5.2	2.1	7.0
6. 相談事業(女性問題相談など)	10.8	5.2	14.0
7. 情報提供事業(情報資料の閲覧、貸し出しなど)	11.8	11.0	12.5
8. 特にない	44.7	54.0	38.9
無回答	6.1	7.2	5.5

〔府中市世論調査との経年比較〕

	H30市民調査 (N=772)	H26世論調査 (N=844)
男女共同参画社会への意識づくりを目標とした事業	9.7	12.2
女性の人権の尊重と擁護を目標とした事業	8.0	6.9
男女共同参画を目標とした事業	14.5	22.6
働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業	27.3	32.9
性に関する女性の権利の確立と健康支援を目標とした事業	5.2	5.3
相談事業	10.8	18.2
情報提供事業	11.8	11.8
特にない	44.7	30.9
無回答	6.1	3.9

問 22

男女が共に認め合い、いきいきと豊かに暮らせる社会を実現させるために、特に力を入れてほしいことは何ですか。（〇はいくつでも）

	全体	男性	女性
1. 男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	36.1	38.1	34.7
2. 女性を施策決定の場に積極的に登用する	23.7	22.0	24.9
3. 職場における男女平等について周知徹底を行う	24.5	24.1	24.7
4. 女性を取り巻く社会的通念や習慣の中の偏見や差別を改める広報活動を充実する	26.7	23.7	28.5
5. 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などを充実する	21.1	16.8	23.7
6. 女性の就労機会を増やすことや、職業教育・訓練を充実する	25.0	20.6	27.5
7. 男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備する	54.1	54.0	55.0
8. 各種団体の女性のリーダーを養成する	9.8	8.9	10.6
9. 学校で男女平等教育を推進する	29.0	28.2	29.4
10. 保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する	44.6	34.4	51.0
11. 各国の男女共同参画に関する取組について理解することや、日本の取組を発信するために、外国人との交流による情報交換などの国際交流を推進する	12.0	7.9	14.6
12. セクシュアルマイノリティへの意識啓発に関する講座やセミナー等を実施する	9.3	8.6	9.9
13. その他	3.2	5.2	1.9
14. 特になし	7.5	11.7	4.9
無回答	2.3	3.1	1.9

〔府中市世論調査との経年比較（上位5位）〕

	H30市民調査 (N=772)		H26世論調査 (N=844)		H25世論調査 (N=836)	
	順位	%	順位	%	順位	%
男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備する	1	54.1	1	60.2		
保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する	2	44.6	2	53.9	1	54.3
男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	3	36.1	6	16.4	3	23.0
学校で男女平等教育を推進する	4	29.0	9	12.3	8	13.0
女性を取り巻く社会的通念や慣習の中の偏見や差別を改める広報活動を充実する	5	26.7	8	14.7	7	17.9

問 23

あなたが「スクエア21・府中市女性センター」で力を入れてほしい活動、実施してほしい講座、セミナーやイベントなどがありましたら、ご自由にお書きください。

主な意見
●DV・ハラスメント・男女平等など、人権一般についての講座・セミナー等を開催してほしい（11件）
●市内企業への再就職支援や、特に必要とされている職に関しての公開セミナーの開催など就業支援をしてほしい（8件）
●パネル展示など、入りやすいイベントの実施や、SNSやLINEなど活用した、施設利用・認知向上にむけたPR活動をもっとした方がよい（8件）
●現在または今後子育てする世代に対して、家庭での役割分担や子どもとのかかわり方について等のセミナー・講座・イベント等を開催してほしい（7件）
●時短でできる料理やヨガ教室など、健康・趣味などの講座やセミナーを開催してほしい（5件）
●産休・育休の制度や法律、医療などの講座やセミナーを開催してほしい（5件）
●老後の生きがいについてなどの勉強会やセミナーを開催してほしい（3件）
●介護が必要になった時の意識づけや公のサポートなどの情報提供をしてほしい（2件）

府中市男女共同参画に関する意識調査 結果概要（速報）

1. 調査概要

対象：府中市に居住する 18 歳以上の市民 調査期間：平成 30 年 9 月
調査方法：郵送による配布回収 配布数：2,000 票
回収数：772（回収率 38.6%）

2. 結果概要

（1）回答者の属性について

- ・回答者の内訳は、男性が 37.7%、女性が 61.3%、不明 1.0%。年齢別では 40～60 代の割合が高い。
- ・世帯構成は親と未婚の子ども（たち）が 44.4%、婚姻の有無は有配偶者が 69.0%、有配偶者の勤務形態は共働きが 50.8%と多い。

（2）あらゆる分野における男女共同参画について

- ・（問 1）関連用語の認知率については、「男女共同参画社会」の認知率が 52.8%（男性 55.3%、女性 51.8%）にとどまり、国の平成 28 年の調査の平均（66.6%）に及ばなかった（※国は「男女共同参画社会」という用語の周知度の目標値を 100%としている）。今回あげた用語の中で最も認知率が高いのは「パワーハラスメント」の 94.3%。そのほか、「セクシュアルハラスメント」「ストーカー規制法」「男女雇用機会均等法」「マタニティハラスメント」の認知率も 80%以上である。
- ・（問 2・問 3）家庭での男女の役割については、理想（本来あるべき）も現実も「仕事、家事（育児・介護）の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応する」が最も多かったが、回答率を比べると、「理想（本来あるべき）」は全体の 64.4%であるのに対し、「現実」は全体の 24.0%にとどまっている。
- ・（問 4）市内や町内での活動への参加状況については、全体で 35.9%がいずれかの活動に参加。男女別では、男性 10 人中 3 人、女性は 10 人中 4 人がいずれかの活動に参加している。参加率が高い活動は、「自治活動（町会・自治会、防災、防犯、環境美化など）」で 21.1%、「子育て関係の活動（PTA、子ども会、子どもの見守りなど）」などである。
- ・（問 4-1）市内や町内での活動へ参加していない理由としては、「仕事や職場の付き合いなどで時間がとれない」が 40.8%で最も多く、「興味がない」の 22.7%を大きく上回る。
- ・（問 5）「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方」については、「反対」「どちらかといえば反対」合わせて 50.4%であり、「賛成」「どちらかといえば賛成」の 32.6%を大きく上回る。男女別では、女性の反対意見が男性より 10 ポイント以上高くなっている。国の

調査と比較すると、全体では「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方」の「賛成」割合が府中市の方が国より少ない。

- ・(問 6) 各分野での男女の地位・立場の平等について、「男女の地位・立場は平等になっていると思う」の回答率が最も高いのは「学校教育の場で」(46.9%)であるが、国や都の調査と比較すると、「学校教育の場」の「平等」回答率は高くない(都 76.3%>国 66.4%>府中市 46.9%)。同様に、「家庭生活」の「平等」回答率もやや低くなっている(国 46.4%>都 40.4%>府中市 32.4%)。男女別でみると、「家庭生活の場で」は男女で回答結果に違いが大きく出ており、男性は「(家庭生活の場で男女が) 平等」が最も多く、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多くなっている。
- ・(問 7) 男女共同参画の意識を育てるために学校教育で必要な取り組みとしては、「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」「男女が協力して物事を進める必要性を学ぶ」の回答率がそれぞれ 7 割と高い。
- ・(問 8) 災害対策に男女双方の視点を生かすために重要なことは、「性別に応じてプライバシー(トイレ・更衣・授乳・就寝スペース等)が確保できる避難所運営を行えるようにする」が 81.3%と最も高く、「災害に関する各種対応マニュアルなどに男女双方の視点を入れる」が 62.8%、「災害対応や復興において男女双方の視点が活かされるよう、災害現場の支援活動の中で男女のリーダーをバランスよく配置する」が 57.9%で続く。
- ・(問 9) 女性が職業を持つことについての考えは「結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい」が 46.8%で最多となり、H26 世論調査と順位が逆転している。国や都の調査と比較すると、(選択肢の文章が若干異なるが)「女性が職業をもち続ける方がよい」の回答率はやや低い(国 54.2%>都 51.7%>府中市 46.8%)。
- ・(問 10) 女性が職業を長く持ち続ける上で、最も大きな壁(単数回答)は「家事・育児との両立が難しい」が 31.1%と最も多い。ついで、「子どもを預ける施設の数やサービスが不足している」が 18.8%と多く、3 番目の「男性の理解や意識が不足している」(8.5%)は一桁の回答率となっている。経年比較でみても、H26 世論調査、H25 世論調査と 1 番目、2 番目は変わらない。

(3) ワーク・ライフ・バランスについて

- ・(問 11、問 12) 生活の中での優先度について、「希望」では『家庭生活』と『個人の生活』を優先したい」が 20.7%で最多だが、「現実」で同項目の回答は 9.7%で低い。「希望」として 2 番目に多い『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべてを優先したい」(19.4%)についても、「現実」では 6.6%と低くなっている。仕事、家庭生活、個人の生活の優先順位に関する「現実」に関しては、男性は仕事優先が 30.9%と最も多く、女性は家庭生活優先が 38.5%と最も多くなっている。これは東京都や国の調査結果でも同じような傾向がみられる。
- ・(問 13) ワーク・ライフ・バランス実現のために有効な取り組みは「長時間労働の削減」との回答が 51.0%、「フレックスタイム、短時間勤務制度など柔軟な働き方の導入」が 46.5%(女性では 52.0%)、「仕事と育児の両立支援」が 46.4%(女性では 52.9%)となっている。

- ・(問 14) ワーク・ライフ・バランスのとれた環境をつくるために府中市に望むこととして最も回答が多かったのは、「働き方の多様化に伴い様々なニーズに対応するため、待機児童の削減や一時預かり等の保育サービスの充実を図る」(55.6%)であり、2番目が「高齢者・障害者・介護者支援の制度充実、環境の整備、情報の提供等を行っていく」(48.7%)、3番目が「男女とも仕事と生活を両立できるようにするため、企業、事業所に対して環境整備を働きかけたり、研修等のワーク・ライフ・バランスへの意識啓発に関する取組の推進をはかる」(38.3%)となっている。

(4) 人権が尊重される社会の形成について

- ・(問 15) パートナー間でけがを負わせるほどの暴力を振るったり、振るわれたりしたときの対応の仕方についての考えとして、「B. 警察や相談機関などにかかわってもらふべきだ。」が全体では「どちらかといえば」を合わせて8割を占めており、前回調査より大幅に増えている。(H30 調査 81.7%>H28 世論調査 68.4%>H24 世論調査 54.8%)。「A(当事者や家族間で解決するように努力するべきだ)」は、「どちらかといえば」を合わせて16.4%であった。
- ・(問 16) 本人及び身近な人の暴力経験者は、「1, 2度あった」(13.1%)、「何度もあった」(7.4%)を合わせると全体の2割(20.5%)である。
- ・(問 16-1) 本人及び身近な人の暴力経験者で「相談した」は32.9%(男性31.8%、女性33.9%)、「相談しようと思わなかった」が34.2%、「相談したかったが、相談しなかった」が22.2%となっている。(一部質問の回答方法が異なるため参考データではあるが)平成29年の国の調査では、「相談した」は47.1%(男性26.9%、女性57.6%)となっている。(※国は配偶者からの被害を相談した者の割合の目標値を男性30%、女性70%としている)
- ・(問 16-2・問 16-3) 相談先は「友人・知人」が59.6%で最も多く、「家族・親戚」(44.2%)、「警察」(19.2%)「医師」(15.4%)と続き、5番目が「スクエア21・府中市女性センターの女性問題相談」「市の人権相談」(ともに7.7%)となっている。相談しなかった理由は「相談しても無駄だと思った」が34.8%で最も多い。
- ・(問 17) DV防止のために府中市の施策として必要なこととしては、「窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする」が61.1%と最も多く、「住民票等のプライバシー確保など被害者の安全を守る体制を確立する」が50.4%、「被害者に対する自立支援(子どもの養育、住宅の確保、就労支援)などを行う」が43.3%(男性35.1%、女性48.4%)で続いている。
- ・(問 18) 日常生活の中で受けたことのある行為としては「容姿や体型などについて話題にされた」は「何度もある」が12.8%、「1, 2度ある」が25.5%と多い。どの行為も「まったくない」が全体では約6~8割であるが、男女別でみると(該当する行為を受けたという)回答率女性のほうが10~20ポイント高い。
- ・(問 19) セクシュアルマイノリティの人々の人権を守るために必要な方策としては、「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」が61.4%(男性54.0%、女性66.6%で男女差がみられる)と最も多く、「セクシュアルマイノリティであっても不利な取り扱いをうけないよう法律や制度を整備する」が52.3%(男性40.2%、女性59.8%で男女差が大きい)、「相談・支援体制を充実させる」が41.3%(男女ほぼ同率)で続いている。

（５）男女共同参画社会づくりに向けた市の施策について

- ・（問 20）「スクエア 21・府中市女性センター」について「施設を利用したことがある」は約 1 割程度で、今回 10.8%＞H26 世論調査では 10.4%＞H25 世調査 6.8%で前回とほぼ同様である。「施設があることを知らなかった」が 47.7%（男性 58.8%、女性 41.0%）、「知っているが利用したことがない」が 39.9%、「施設を利用したことがある」は 10.8%（男性 3.4%、女性 15.2%）となっている。
- ・（問 20-1）利用したことがない理由としては、「現時点で利用する必要性を感じない」が 69.8%（男性 77.1%、女性 67.0%）で最も多く、「どのような事業をしているか情報がない」が 30.8%、「自宅から遠く不便」が 17.5%（男性が 4.8%、女性は 23.5%で男女差が見られる）と続く。
- ・（問 21）利用したい講座・セミナー等としては、「働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業」が 27.3%（男性 18.9%、女性 32.3%）で最も多く、「男女共同参画を目標とした事業」が 14.5%、「情報提供事業」が 11.8%、「相談事業」が 10.8%で続いている。「特にない」の 44.7%を男女別でみると、男性が 54.0%、女性 38.9%となっていて、関心の違いがみられる。
- ・（問 22）男女が共に認め合いいきいきと豊かに暮らせる社会実現のために力を入れてほしいこととしては、「男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備する」が 54.1%で最も多く、その次に多いのが「保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する」の 44.6%（男性が 34.4%、女性は 51.0%）である。1 位、2 位はH26 調査と同じ結果となった。なお3位には「法律の制定」があげられており、法的整備がまだ必要と考える人が少なくないことや、職場等で制度の運用や周知がはかられていないことなどが考えられる。
- ・（問 23）スクエア 21・府中市女性センターで力を入れてほしい活動、実施してほしい講座、セミナーやイベントに関する要望としては、DV・ハラスメント・男女平等など人権関連、就業支援関連の講座・セミナー、子育て世代を対象にしたイベント・セミナーほか、趣味・健康・法律・医療・介護などに関する講座などがあげられた。また、SNSやLINEなど活用した施設事業の周知やPR活動に関する要望もあげられた。

府中市男女共同参画計画推進状況評価重点項目各委員評価

※敬称略

【評価基準】 ※→は評価点数換算
 A…施策は非常に良好に進展している → 5
 B…施策は、良好に進展している → 4
 C…現状維持 → 3
 D…施策がやや後退している → 2
 E…後退している → 1

資料 3

I あらゆる分野における男女共同参画											
1 社会・地域における男女共同参画			4	4	3	4	4	4	4	4	3
(1) 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大			各委員による評価								
2 すべての審議会等に女性委員の登用		政策課	B	B	C	B	B	B	B	B	C
各委員 の意見	女性を登用する審議会の数が着実に増えていると思いますので、この評価としました。今後は、女性の登用をさらに促進するため、附属機関等の全委員に対する女性委員の割合を高めることを目標にしていきたいと思います。										
	昨年度からさらに女性比率を高め、目標の93%を上回った。30年度に掲げる目標98%も高く、関係者の意気込みを感じる。対策がもう少し具体的に書けているとなお良い。										
	28年度と29年度では附属機関の分母が異なり、女性登用割合が6.2%上昇も評価しにくい。6.2%上昇要因がわからない。パーセンテージを上げるための強引な女性委員の登用とならないように気をつけてほしい。										
	年々増加傾向にあり一定の評価はできる。ただ、登用ありきが先行して、委員会そのものの機能に支障をきたすことのないよう留意する必要がある。										
	女性委員がいない審議会をなくすことへの積極性を感じました。今後に期待いたします。										
	確実に増加している事と、今後の目標が明確なためB評価とした。										
	女性委員を登用した審議会の割合が6.2%増加した事は、成果が出ていると思う。事業項目に「すべての審議会等に～」とあるので目標としては98%以上ではなく100%として欲しい。										
	目標値を上回る実績を残されているため、この評価とさせていただきました。女性委員の割合が1-2割以下の機関等については、引き続きの取組活動の強化をお願いいたします。										
	目標93%に対して96%の達成となったことは評価できる。政策課が女性比率を高めるためにどのような取り組みをしたのか、登用していただけなかった2機関についてはその理由を詳しく知りたい。次年度の目標は98%といわず、100%を目指していただきたい。										
判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	良い結果につながる気運が見えてきているものの、審議会が発信場所につき、違った切り口を探れないだろうか。										
	積極的な目標を掲げ、女性を登用する審議会の数が着実に増えているためこの評価としました。目標は100%とするとなお良いと思います。今後は、貴課が女性比率を高めるためにどのような対策・取り組みをしたのか、女性を登用していない2機関（府中市都市計画審議会部会、府中市建築紛争調停委員会）の理由について、詳しく記入してください。引き続き、女性委員の登用が100%となるよう努力してください。 その他にも、この項目と関連する審議会の女性委員割合について、平成29年度の実績が32%とありますが、目標の40%達成に向けて積極的に取り組んでください。										

評価平均
3.8
評価
B

(4) 安全・防災対策の推進		4	2	4	3	3	3	4	3	3	4	評価平均
18 男女双方の視点を取り入れた防災対策の推進		各委員による評価										3.3
各委員 の意見	女性の参加率が高まっていると思いますので、この評価としました。 女性視点の取組が進展していると思いますが、さらに女性参加率を目標値に近づけるとともに、良いマニュアルになるよう改善して いてもらいたいです。	B	D	B	C	C	C	B	C	C	B	評価 C
	目標の40%に届かなかったのでこの評価とした。女性の参加率を促したとあるが、具体的に <u>どのような対策をとったのか具体的に記 述してほしい。</u>											
	29年度の計画目標に基づき行動し、女性視点を取り入れた内容である <u>授乳室設置を実施したことを評価し、この評価にしました。今 後も各避難所運営連絡会における女性の参加率が40%となり更なる改善へ結びつくよう目指して下さい。</u>											
	意見なし											
	「女性視点」というのが強調されているのを強く感じました。											
	女性の参加率は上がっているが、内容にあまり変化を感じないため。											
	避難所運営連絡会の女性参加を促した成果は出ていると思う。女性視点により <u>授乳室が設置されたことも良いと思う。防災訓練の実 施結果も回数や箇所数等の数値が出るとさらに分かりやすくなると思う。</u>											
	各避難所運営連絡会等への参加率は29%で、目標値に対する達成率は72%とのことですが、 <u>授乳室を設置するなど女性視点の取組みの 実施は活動の成果</u> と思います。引き続き、女性の参加率を高め、男女双方の視点を取り入れた防災対策を推進するための検討・工夫を お願いいたします。											
	女性の参加率40%の目標に対し、実績は29%と未達成。しかしながら、女性視点の内容が検討されたことにより、 <u>実際に授乳室が設置 されたことは評価できる。女性の参加率を上げるためにどのような取り組みをしたのか？次年度の目標達成に向けてどのような取り 組みが有効だったのか</u> を検討していただきたい。											
判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	自然災害が多くおきている中、さらなる対応策が期待されるところである。											
	女性視点により授乳室が設置されたことは評価できますが、貴課の設定する40%の目標は達成できていないため、この評価としま した。 今後は、女性の参加率を上げるためにどのような取り組みをしたのか、防災訓練の実施回数や箇所数、次年度の目標達成に向けて どのような取り組みが有効だったのかを記入してください。 自然災害が多く起きている中、男女双方の視点を取り入れた防災対策は急務だと思いますので、引き続き、検討・工夫をお願い いたします。											

2 教育の場における男女共同参画
(1) 学校における男女平等教育の推進

		4	3	3	4	3	3	3	3	3	3
		各委員による評価									
32 発達段階に応じた性教育等の実施	指導室	B	C	C	B	C	C	C	C	C	C
各委員 の意見	計画どおり事業をを実施しているということで、この評価としました。学習指導要領に基づき指導していくことは、大変重要なことだと思いましたが、生徒の理解度の把握も必要だと感じました。										
	「決められたことを着実に実施し目的を果たし、特に課題はない」と理解し現状維持とした。評価の内容、取組に対する今後の課題には、それぞれ自己評価、今後の課題（ないのであればなしと）を記述してほしい。										
	実績がわからない。理解度アンケート（生徒に）や指導を行う先生にどう工夫して授業を行っているか等、ヒアリングして成功例を他校へ広める等、学校に任せっきりにならないよう取り組むべきだと思います。										
	取組み施策に具体制が盛り込まれており評価出来る。										
	内容はともかく、しっかりと回答されている姿勢を感じました。発達段階に見合った計画的、継続的な指導に期待します。										
	指導の取組は評価できるが、指導結果がまだ評価できる段階ではないと思ったため。										
	指導内容は、わかり易く説明されている。この内容を学校への伝え方が書面なのか、講習会等を通してなのかその辺も知りたい。										
	学習指導要領における性に関する主な内容等が詳しく記載されており、わかりやすく、状況を示していただいていると思います。引き続き、継続実施に努めていただくとともに、実態把握や年度計画および目標設定等の検討をお願いします。										
	時代、発達段階に応じた性教育を学習の中に取り入れるために、指導課が実際にどんな取り組みをしたのかが不明確。指導課が各学校に出向いて教育したのか、各学校の代表者に指導をしたのか？各学校に指導したなら、何校に対して？何回？何人？等の数値による目標設定、実績管理が可能であるはず。次年度は体育・保健体育科、道徳、特別活動を通じて、性にかかわる内容について計画的・継続的な指導を実施する、ということであるが、同様に数値目標を入れていただきたい。「計画的、継続的」な指導というのが不明確。										
	SNSなど情報化社会での影響が大きくなる中、後手にならないよう早急な対策を考えるべきである。										
判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	計画どおり事業を実施しているようですが、実績、今後の課題、目標が不明瞭なため、この評価としました。今後も学校に任せきりにならないように取り組んでください。 今後は、貴課が各学校に出向いて指導したのか、書面で伝えたのか、誰に指導したのか、市内の何校に何回実施したのか、そして、計画及び目標の「計画的・継続的な指導の実施」について具体的に記入してください。 SNS等が普及し、情報化社会での影響が大きくなる中、後手にならないよう発達段階に応じた対策をお願いいたします。										

評価平均
3.2
評価
C

Ⅱ ワーク・ライフ・バランスの推進											
1 仕事と生活の両立支援推進			3	4	4	4	4	4	4	4	4
(1) 職場におけるワーク・ライフ・バランスの推進			各委員による評価								
41 ノー残業デーの徹底	職員課		C	B	B	B	B	B	B	B	B
各委員 の意見	一人当たりの <u>超過勤務が減っていることは評価できますが、事業目標であるノー残業デーにおける定時退庁の徹底については、平成28年度の定時退庁率が示されておらず、取組が進展しているのかよくわからないのでこの評価としました。今後も、ワークライフバランスを推進するために、具体的な取組を実施することが必要だ</u> と思います。										
	<u>着実に進んでいるのでBとした。</u> <u>数値目標に定時退庁率や超過勤務時間数などの具体的な数値を掲げるとなお良い。</u>										
	<u>超過勤務時間数が前年度比で3%減少していることを評価して、この評価にしました。無理なコストカットにならないように注意して更なる取組をお願いします。</u>										
	「朝型勤務形態」を導入するなど <u>努力のあとが伺える</u> 。今後とも全庁ベースで意識の向上を図っていただきたい。										
	<u>前年度比約3.0%減は素晴らしい</u> と思います。多様な勤務形態の導入により、 <u>個々が生活スタイルに合わせた勤務ができて好循環になることに大いに期待</u> します。										
	意見なし。										
	ノー残業デーのみにとどまらず、様々な状況で働く、それぞれの人に合った「 <u>時差勤務</u> 」の実施は <u>とても良い</u> と思う。										
	<u>朝型勤務形態の実施、ノー残業デーの周知・徹底を着実に実行</u> されており、 <u>超過勤務時間数の減少はこれまでの継続的な活動の成果</u> と思います。また、提示退庁率の算出や「朝型勤務」の発展型として「時差勤務」を計画に掲げられているなど、 <u>積極的な取組</u> をされているものと思います。引き続き、啓発活動に努めていただくようお願いいたします。										
	朝方勤務形態の実施等により、 <u>超過勤務時間数が減少したことは評価できる</u> 。しかしながら、次年度に対しては、 <u>数値目標を設定していただきたい</u> 。（超過時間数、定時退庁率、等）										
	<u>いろいろな視点での取り組み方法の検討</u> が求められる。										
判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	超過勤務時間数が前年度比で3%削減を達成していることや、平成30年度「時差勤務」を実施する等、積極的な取り組みを行っているため、この評価としました。今後は、目標について、定時退庁率や超過勤務時間の具体的な数値を掲げることも必要だと思います。 引き続き、個々の生活スタイルに合わせた勤務ができるよう、様々な視点での検討を期待します。										

評価平均
3.9
評価
B

2 子育て支援

(3) 地域での子育て支援

		4	3	4	4	3	3	3	3	4	3
		各委員による評価									
54 放課後子ども教室の実施	児童青少年課	B	C	B	B	C	C	C	C	B	C
各委員 の意見	児童のニーズに合った見直しを行い、 <u>体制の強化により総参加者数が伸びた</u> ということなので、この評価としました。 <u>今後も学童クラブと連携した施設運営を行い、支援の充実を目指してほしい</u> と思います。										
	<u>取組、評価、今後の課題が昨年とほぼ同様なので進展しているとは言えない。</u> <u>数値目標の22校はすでに達成している数値。別の数値目標を掲げてほしい。たとえば、連携して運営する施設を〇カ所確保するな</u> <u>ど。</u>										
	改善のための取組を行い、 <u>一定の成果を出している</u> のでこの評価としました。										
	昨年に引き続き、全校において <u>一体的に連携しながら実施しており評価</u> したい。										
	市立小学校22校全校で「放課後子ども教室」が実施できていることや開催日や総参加人数が増えていることから <u>努力が感じられま</u> <u>す</u> 。また、学童クラブとの連携におけるメリットはどのような点でしょうか。条件が合わないため利用できない児童のニーズとは何 でしょうか。児童に寄り添った対応の温かさを感じます。										
	意見なし。										
	多様なニーズに対応できた事により開催日数を増やし、その結果、 <u>総参加人数も増えている事は良い</u> と思う。課題にもあがっていた 学童との連携ができる施設の確保もどうなっているか報告が欲しい。										
	総参加者数の増加は、 <u>学校休業日における開催日数の増加など着実に計画を実行されるなどの活動の成果</u> と思います。推移がわかる よう、年度ごとの参加者数や開催日数等の記載検討をお願いします。引続き、継続実施いただくとともに、拡大支援に努めていただ くよう、お願いいたします。										
	放課後子供教室の開催日数、総参加者数が増加したことは評価できる。30年度の目標が、 <u>29年度の実績と比較して何が違うのか理解</u> <u>できない</u> 。（「22校全ての小学校において、放課後子ども教室と学童クラブが合同でお話し会や避難訓練を行うなど一体的または連 携して事業を行う。」と30年度目標にあるが、これは29年度に実施できているはず。何をどこまでできているのか、29年度は何を積 み残して、30年度は何をやらなくてはいけないのかが不明確であるので、29年度実績、30年度計画に対して、「何をどこまで」と言 う点を明確にしていきたい。										
	子育て環境が大きく変化している中、 <u>社会全体での子育て支援が実現できるよう世代間交流を活用して欲しい。人と人とのつながり</u> <u>を重視すべきではないか。</u>										
判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	学校休業日の開催日数を増やし、参加者が増加していることが評価できるためこの評価としました。記入内容について「取組と実 績」「評価の内容」「取組に対する今後の課題」が昨年度とほぼ同様なため、今後は具体的に記入してください。 今後も一体的に連携することや、人と人とのつながりを重視するために社会全体での子育て支援が実現できるよう世代間交流を活 用してください。										

評価平均
3.4
評価
B

Ⅲ 人権が尊重される社会の形成												
1 配偶者等からの暴力の防止			4	4	3	4	3	3	4	4	3	4
(2) 被害者に対する支援の充実			各委員による評価									
64	相談体制の充実	地域コミュニティ課	B	B	C	B	C	C	B	B	C	B
各委員 の意見		相談窓口の周知を図るため、いろいろな工夫を凝らしながら事業を展開しているので、この評価としました。 今後も、一人でも多くの若者が被害者とならないよう、DVに対する正確な認識を持ってもらうための啓発を行うとともに、関係機関と連携してより効果のある窓口体制を確保してもらうことを期待します。										
		新しい取組（リーフレットの作成・配布やほっとカフェの計画など）を重ねていることを評価しBとした。 相談カードの女性トイレの配架は効果があるのか、相談に来た人たちは何を見て相談窓口を知ったかなどのアンケートを取っているか、その結果はどうかなどさらに踏み込んだ対応を期待する。										
		28年度で相談カードの設置場所等を検討するとあるが、29年度新たな設置場所や改善点がないため、この評価にしました。										
		着実に施策を講じており評価できる。										
		周知活動への努力は今後とも続けていただくと共に自ら声を出せず苦しんでいる人の掘り起こしをどうするかを考える必要性を感じます。										
		周知は向上しているが、当事者が相談できるか（しやすいか）を向上させないと評価は上がらないと思う。										
		今までどおりの女性問題相談の周知に加え、新しくリーフレットを作成し配布した事は良いと思う。また計画に「ほっとカフェ」の開始など、より気軽に相談できる環境づくりも評価できると思う。										
		リーフレットの作成・配布、女性問題相談カードを通しての周知活動の継続実施、「ほっとカフェ」の計画など、活動推進に向けた活発な取組みをされていると思います。引き続き、啓発活動、支援の拡充をお願いいたします。										
		29年度はリーフレットを作成したということだが、目標である、「市民への効果的な周知」ができたかどうかは疑問なので、Cとした。 「デートDVのリーフレット公共施設全23施設へ配布し、意識啓発活動を行った。」とのことだが、デートDVの啓蒙活動であるなら、むしろ学校での啓蒙を強化したほうがいいのではないかと思います。もしくは、若い女性に見てもらうためにはどこで啓蒙活動をすればいいのか？という議論はなされたのか？（もしもなされた上でのことであれば、私の認識不足なのかもしれませんが）30年度は効果的な周知をお願いします。										
		「ほっとカフェ」の設置は新しい試みで良好。多角的な試行錯誤は期待できるところである。										
判定理由及び改善策の提言等（案）	いろいろな工夫を凝らしながら、新たな事業を展開しているためこの評価としました。引き続き、相談カードの設置場所の追加、潜在的なニーズの掘り起こし、相談しやすい環境づくりに努めてください。また、相談相手になりやすい家族や友人への意識啓発もお願いいたします。											

評価平均
3.6
評価

2 人権の尊重

(3) セクシュアルハラスメント防止の推進

人権の尊重			3	2	3	3	2	3	3	2	2	3	評価平均	
(3) セクシュアルハラスメント防止の推進			各委員による評価											
79②	職員・教職員のための相談窓口の充実		指導室	C	D	C	C	D	C	C	D	D	C	2.6
各委員 の意見	セクシャルハラスメントに関して労働者からの相談に対応するための体制整備を図ることは重要なことでありますが、 <u>事業展開が周知にとどまっていることから、この評価としました。</u>													
	本件に関する職員課と指導室の役割分担はどうなっているのか。相互に連携してこの問題に対処しているのか。 <u>ハラスメントに対する問題意識を高めて頂きたい。企業ではすべての部門にハラスメント担当者を置いているところもある。</u>													
	28年度にあげた29年度の課題である <u>相談員のスキルアップに対して何も働きかけていないためこの評価にしました。</u> 苦情処理担当窓口の充実を図るため、何か動くべきだと思います。相談しやすい体制を整えるにしても、 <u>何がさまたげになっているか考える、調査する等した方がいい</u> と思います。アンケートで現状把握や改善検討を行った会議の回数でもよいので <u>評価できる数値や実績が次年度は欲しい。</u>													
	「本当に」 <u>相談しやすい体制</u> を目指してもらいたい。													
	29年度の相談件数が0（ゼロ）というのは「 <u>相談しやすい体制を常時整えている</u> 」のかを見直していただきたいと思います。実際に赴くだけでなく、相談窓口の形（投書箱等）に工夫を期待します。													
	相談件数0が、 <u>事例がなかったからなのか、相談しにくい環境だったのか分からない。</u> 相談しやすい環境をもっと整えて、その上で0なら素晴らしいと思う。													
	相談件数は29年度だけ0件なのか、毎年0件なのか <u>過去のデータも知れると良い。</u>													
	引続き、相談窓口の周知に努めていただき、より相談がしやすい環境・体制作りをお願いいたします。 <u>相談件数の目標設定は困難であり、相談件数がゼロであることは良いことではあります、実態把握、継続実施をしていくうえでの課題等について検討をお願いいたします。</u>													
	29年度は、引き続き相談窓口を設置し、教職員には各学校の校長を通じて周知した結果、相談件数が“0件”ということだが、 <u>周知がなされていないか、相談しにくいという課題があるのではないか？</u> と推測される。 30年度の計画も申し訳ないが、やる気が感じられない。													
	<u>今日の社会状況では、あらゆる場面（スポーツ業界など）で問題が示されている。</u> この気運を上手く活用できないものかと考える。													
判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	事業展開が周知にとどまっているためこの評価としました。相談しやすい体制なのかの見直し、実態把握、継続実施をしていくうえでの課題等について検討をお願いいたします。そして、相談件数の目標設定は困難ではあります、評価できる数値や実績の記入をお願いいたします。また、次期計画では、セクハラだけでなく、様々なハラスメントへ対策を検討してください。 最近、スポーツ界等あらゆる場面でハラスメントの問題が起きていますので、今まで以上に問題意識を高めてください。													

3 生涯を通じた健康支援

4 3 3 3 3 4 3 4 4 4

(1) 生涯を通じた健康保持・増進支援

(1) 生涯を通じた健康保持・増進支援				各委員による評価									評価平均	
81	健康診査事業の充実		健康推進課	B	C	C	C	C	B	C	B	B	B	3.5
各委員 の意見				高い検診率を維持していることから、この評価としました。 今後も、引き続き受診を促すような啓発に取り組んでいただきたい。									評価	
				昨年度と同様の取組内容であるが、 <u>受診率が向上</u> しているのでこの評価とした。30年度は新たな取組が計画されているので、 <u>今年度の成果に期待</u> する。										
				各健診とも定員充足率100%を目指してどのような取組をしたのかわからないのでこの評価にしました。30年度の目標計画が遂行され、100%に近づくことを期待します。										
				受診率が上がっている。ただ、 <u>乳がんの率がもう少し高いと、もっと良い</u> 。若い方は高齢の方より受診しないのだろうか。年齢層がわかると良かった。										
				検診により人数の変化があるが、肺がん検診のように大きく増えた理由もあるとわかりやすい。 <u>他の事業と連携して周知機会の増加に努める計画はとても良い</u> と思う。										
				前年度に比べ、ほとんどの検診において受診者の <u>人数が増加</u> しており、 <u>啓発活動の成果</u> と思います。また、定員充足率や「計画及び目標」を具体的に記載されており、実態が把握できました。引続き、受診推奨に努めていただくようお願いいたします。										
				目標の定員充足率100%は達成できていないが、 <u>ほとんどの検診で受診者が増えている</u> 。 30年度の周知、啓蒙のための計画が具体的で、効果が期待できる。										
				着実にガン検診の重要性が伝達できつつあると考える。										
判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	高い受診率を維持しているためこの評価としました。今後は乳がんの受診率をもう少し上げてください。また、受診の結果、病気が発見できた方の統計があれば是非、記入してください。 30年度は新たな取組が計画されており、成果に期待します。													

Ⅲ 人権が尊重される社会の形成														
4 相談体制の充実				4	3	3	4	3	3	2	3	3	3	
(1) 相談窓口の充実				各委員による評価										
89③	女性自身に関する相談			子育て支援課	B	C	C	B	C	C	D	C	C	C
各委員 の意見	相談件数について、前年度と比較し、約41%の増加があり、多くの市民の悩みに対応していることが伺えるので、この評価としました。今後も、相談を受けるだけにとどまらず、関係機関と連携を図り悩みの解決に向けて実効性のある支援に努めてもらいたい。													
	昨年度から相談件数の増加が懸念されているが、その対応についての記述がない。どのように対応したのか、今後どのような手を打っていくのか。													
	相談受付の周知活動による件数増加か純増なのか具体的な取組内容がないのでわからない。増加件数への対応や相談体制維持のため何か取組んでいるのか等、詳しく記載してほしい。													
	相談件数のアップは一定の評価ができるが、当事者が本当に問題解決の一助になったかどうかの検証も分析することも必要である。													
	とても大切で必要でデリケートな事業内容ですので、引き続き地道に対応をお願いいたします。													
	相談件数はかなり増えているが、今後の課題や計画等、前年度と同じで、対応が可能なのか疑問な為。													
	多くの相談件数に対し、対応可能な体制が整っていることは活動の成果だと思います（相談件数の数値はこれまでの延べ件数でしょうか）。新規相談、継続相談の割合等、現状も踏まえていただきながら、引き続き、相談体制の支援充実に努めていただくようお願いいたします。													
	相談内容が複雑、多様化している中で、適切な助言、支援ができるようどのようなアクションをとったのかが不明。関連機関とも具体的にどのような連携をとっていくのか？たとえば、関連機関と定期ミーティングを毎月、3ヶ月に1回開催する、といった具体的な目標設定をしていただきたい。													
判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	関係機関との連携強化は大変効果が得られると思える。離婚などでシングルマザーも増加傾向にあるので、迅速な対応が求められる。													
	多くの相談を受け、件数に対し、対応可能な体制が整っていることは活動の成果だと思いましたが、今後の課題や計画等、前年度と同じであり着実に進捗しているが見えないため、この評価としました。 相談件数の増加についての増加理由や当事者が本当に問題解決の一助になったかを検証することも必要だと思います。 引き続き、相談体制の支援充実に努めてください。													

IV 男女共同参画社会づくり												
1 普及・啓発活動の推進			3	3	4	3	3	3	3	3	3	4
(3) 推進体制の充実			各委員による評価									
96	スクエア 2 1・女性センターの運営	地域コミュニティ課	C	C	D	C	C	C	C	C	C	B
各委員 の意見			センターの稼働率については、前年度と比較して約 13%減少しているものの、来館者数については約 4%の減少にとどまり、 <u>多くの来館者数を維持していることから、センターの機能を多くの市民が活用していることが伺えるので、この評価としました。</u> 今後も市民のニーズの把握を怠ることなく、男女を問わず市民が施設を利用したくなるように機能を充実し、 <u>魅力ある拠点になることを期待</u> します。									
			昨年度と比較するとDと評価すべきであるが、ここ数年の推移や男性参加者は <u>増えていること</u> などからこの評価とした。 <u>なぜ来館者が増えないかの分析が必要、予定されている市民意識調査の結果からその原因を探してほしい。</u>									
			2,000人減となったため。市民のニーズを把握、魅力ある講座、30年度では <u>男性向け講座の実施で来館者数増を期待</u> します。									
			各種講座の充実・回数を増やして <u>稼働率アップにつなげてもらいたい。</u>									
			28年度の講座数は？来館者数の減少はなぜ？今後利用料を有償化する上で課題です。 <u>稼働率を上げる上でも講座の内容や開催時間が重要</u> だと思います。期待しております。									
			意見なし。									
			来館者・稼働率ともに前年に比べ減ってはいるが、 <u>対応としての計画が立てられているのでこの評価としました。</u>									
			過去の来館者数、稼働率等の推移を調査し、「評価の内容」、「今後の課題」「計画および目標」等を具体的に掲げられており、積極的な取組みをされているものと思います。 <u>新規利用者のみならず、再利用者の増加も視野に入れ、引続きの周知に努めていただくようお願いいたします。</u>									
			29年度の目標である、男女共同参画の推進にかかわる情報誌の発行が実施されたのかどうか不明。 <u>来館者数、稼働率の減少にはプラッツ開館の影響もあるのではないかと</u> 思う。									
			<u>男性が家事、子育てに主体的に活動している場面を多く目にする状況にある</u> と思える。 <u>この傾向を大切に育ててゆけるような指導働きかけが求められるところである。</u>									
判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)			来館者数は減少しているものの、課題であった男性の利用者数が増加しているため、この評価としました。 今後も、男性が家事や子育てに対して主体的に活動できるよう積極的に働きかけてください。また、来年度はセンターの名称を変更されると思いますので、周知活動等を積極的に行い、来館者（男性や継続利用者）及び稼働率を増加に努めてください。									

評価平均
3.2
評価